

蒲生干潟の植物⑫

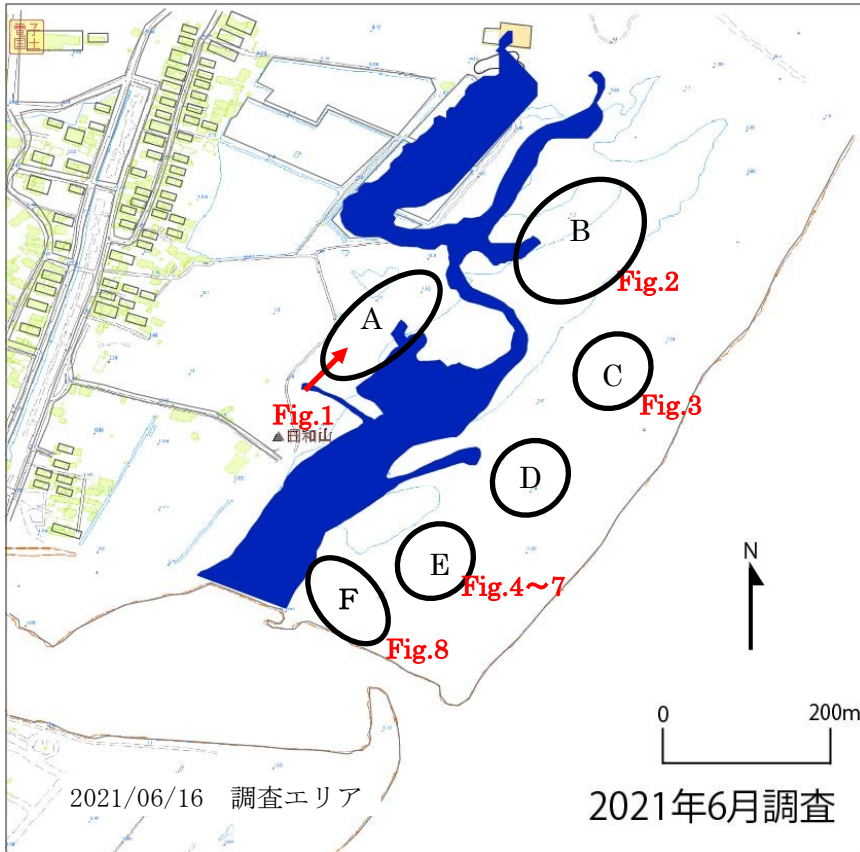


Fig.1 エリアAを南東側から撮影



コウボウシバ

Fig.2 エリアBで撮影



ハマヒルガオ

Fig.3 エリアCで撮影



ブタナ

Fig.4 エリアEで撮影



マツ

Fig.5 エリアEで撮影



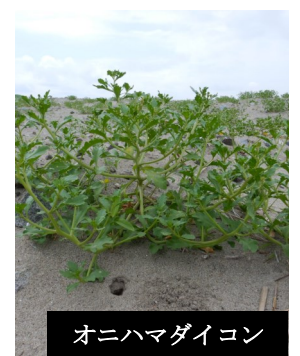
ハマボウフウ

Fig.6 エリアEで撮影



コマツヨイグサ

Fig.7 エリアEで撮影



オニハマダイコン

Fig.8 エリアFで撮影

調査日時：2021年6月16日（水）9:30～11:00，天気：くもり

エリアAの東側では、一面にハママツナが分布しており、その密度が大きくなっている様子が分かる（Fig.1）。エリアBでは、ヨシ原のエリアが広がっており、コウボウムギがあまり見られなくなった。代わりにコウボウシバが広範囲に広がっていた。コウボウシバは花が終わり、穂が色づいてきた（Fig.2）。エリアC,D,Eで見られたハマエンドウはすっかり枯れてしまい、かわりにハマヒルガオが花を咲かせていた（Fig.3）。エリアEには、ブタナが1株（Fig.4）、背丈が40cmほどのマツが1本（Fig.5）、ハマボウフウが数株（Fig.6）、コマツヨイグサが数株（Fig.7）生息していた。これらは、海と川が合流するエリアに近い場所であり、他のエリアでは生息が見られていないので、外から運ばれてきた可能性が高い。今後の広がりを見たい。エリアFの砂地は、オニハマダイコン以外の種がほとんど見られない状況であるが、オニハマダイコンの数が増え、株毎に一定の距離を保って数多く生えていた。1か月前と比べるとかなり大きく成長している。

（宮崎佳彦）